

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3614708号
(P3614708)

(45) 発行日 平成17年1月26日(2005.1.26)

(24) 登録日 平成16年11月12日(2004.11.12)

(51) Int.Cl.⁷

F I

A 4 7 G 29/00

A 4 7 G 29/00

A

A 4 7 G 29/093

A 4 7 G 29/093

A 4 7 K 10/42

A 4 7 K 10/42

Z

請求項の数 2 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-135694
 (22) 出願日 平成11年5月17日(1999.5.17)
 (65) 公開番号 特開2000-325221(P2000-325221A)
 (43) 公開日 平成12年11月28日(2000.11.28)
 審査請求日 平成13年10月30日(2001.10.30)

(73) 特許権者 592190958
 中田 岩則
 福岡県北九州市若松区宮丸1丁目18-1
 6
 (74) 代理人 100090697
 弁理士 中前 富士男
 (72) 発明者 中田 岩則
 福岡県北九州市若松区大池町14-5
 審査官 氏原 康宏

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 角形箱のハンガー装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

左右対となる吊り下げ部材からなり、直方体形状をした角形箱を吊り下げるハンガー装置であって、

前記左右の吊り下げ部材はそれぞれ、上端部がフック状に折り曲げ可能な又は予め湾曲させてフック状に形成した掛止部となっており、下部には前記角形箱の下部に合わせて角U字状の箱載置部を形成するメイン部材と、前記角形箱を上部から覆うL字状のサブ部材とを有し、しかも、前記メイン部材及び前記サブ部材は線材からなり、前記サブ部材の上側押え部の端部にリング状に形成された第1の摺動部に前記メイン部材の中間部が嵌入し、前記メイン部材の箱載置部の端部の立ち上がり部の先端部にリング状に形成された第2の摺動部に前記サブ部材の垂下部が嵌入し、前記サブ部材の前記垂下部の先端にリング状に形成された第3の摺動部に前記メイン部材の前記立ち上がり部が嵌入していることを特徴とする角形箱のハンガー装置。

10

【請求項2】

請求項1記載の角形箱のハンガー装置において、前記メイン部材の箱載置部の端部側及び/又は前記サブ部材の下端側には、前記角形箱に向かって突出する突き刺し部が設けられていることを特徴とする角形箱のハンガー装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

20

本発明は、例えば病院のベッドの手摺りなどにティッシュペーパーの箱などの直方体形状をした角形箱を吊り下げる角形箱のハンガー装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来、病院や老人ホームなどのベッドの近くには机やロッカーなどの台が置かれ、患者などが日常使用するポット、湯飲み、薬、ティッシュペーパーの箱などを置いている。しかし、ベッドの周囲には広い台を置くことが難しく、台上にはポット、湯飲み、薬程度しか置けないため、比較的スペースを広く占めるティッシュペーパーの箱は使用頻度が多いにもかかわらず、ベッドの近くの台上には置くことができず、ベッド上の枕元やベッドの下に置いていることがある。

10

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ティッシュペーパーの箱をベッド上の枕元に置いている場合には、患者が寝ている間に寝返りや布団の移動によってティッシュペーパーの箱を床に落とすことがあり、ベッドの下に置いている場合には、緊急時に手が届かず、極めて不便な思いをするという問題があった。

本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、簡単にベッドの傍にティッシュペーパーの箱などの角形箱を取付けることが可能な角形箱のハンガー装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 4 】

20

【課題を解決するための手段】

前記目的に沿う本発明に係る角形箱のハンガー装置は、左右対となる吊り下げ部材からなり、直方体形状をした角形箱を吊り下げるハンガー装置であって、

前記左右の吊り下げ部材はそれぞれ、上端部がフック状に折り曲げ可能な又は予め湾曲させてフック状に形成した掛止部となっており、下部には前記角形箱の下部に合わせて角U字状の箱載置部を形成するメイン部材と、前記角形箱を上部から覆うL字状のサブ部材とを有し、しかも、前記メイン部材及び前記サブ部材は線材からなり、前記サブ部材の上側押え部の端部にリング状に形成された第1の摺動部に前記メイン部材の中間部が嵌入し、前記メイン部材の箱載置部の端部の立ち上がり部の先端部にリング状に形成された第2の摺動部に前記サブ部材の垂下部が嵌入し、前記サブ部材の前記垂下部の先端にリング状に形成された第3の摺動部に前記メイン部材の前記立ち上がり部が嵌入している。

30

これにより、メイン部材の箱載置部に角形箱、例えばティッシュペーパーの箱を載置し、サブ部材を摺動させてティッシュペーパーの箱の上部から覆い、メイン部材とサブ部材を挟んで、ハンガー装置の掛止部を、例えばベッドの手摺りに掛止することにより、ベッドの傍にティッシュペーパーの箱を取付けることが可能となり、ベッド上の枕元やベッドの下に置いておく必要がなく、ベッド上に寝ている人が簡単にティッシュペーパーの箱からティッシュペーパーを取り出すことができる。

また、メイン部材及びサブ部材は線材を曲げることによって形成することが出来、しかも、例えばサブ部材の上側押え部の端部をリング状に曲げて形成した第1の摺動部と、メイン部材とサブ部材の端部をリング状に曲げて形成した第2及び第3の摺動部によって、メイン部材とサブ部材を摺動可能に接続するので、ハンガー装置の製作が極めて簡単で安価であり、重量も軽く、使用しないときには左右の吊り下げ部材を重ねることによって占有スペースが小さくなり、狭いスペースでの収納が容易となる。

40

ここで、メイン部材の箱載置部の端部側及び/又はサブ部材の下端側には、角形箱に向かって突出する突き刺し部を設けてもよい。この場合、箱載置部に載置した角形箱に突き刺し部が突き刺さるので、角形箱が箱載置部から滑って落下することを防ぐことができる。

【 0 0 0 5 】

【 0 0 0 6 】

【発明の実施の形態】

続いて、添付した図面を参照しつつ、本発明を具体化した実施の形態につき説明し、本発

50

明の理解に供する。

ここに、図１（Ａ）、（Ｂ）はそれぞれ本発明の第１の実施の形態に係る角形箱のハンガー装置を示す斜視図、部分拡大斜視図である。

【０００７】

図１（Ａ）、（Ｂ）に示すように、本発明の第１の実施の形態に係る角形箱のハンガー装置２０は、例えば塩化ビニールなどの合成樹脂素材を被覆した鉄線などの線材によって形成された、左右対となる吊り下げ部材３０を有し、直方体形状の角形箱１０を吊り下げる装置である。それぞれの吊り下げ部材３０は、上端部を予め湾曲させてフック状に形成した掛止部４１を有し、下部には角形箱１０の下部の形状に合わせて角Ｕ字状の箱載置部４２を有するメイン部材４０と、角形箱１０を上方から覆うＬ字状のサブ部材５０とからな

10

っている。なお、箱載置部４２の底部４２１の長さＷ１は角形箱１０の幅Ｗ２と同じか、幅Ｗ２より僅かに小さくしている。メイン部材４０の中間位置（中間部）は、サブ部材５０の水平な部材である上側押え部５１の端部に設けたフック状に形成した第１の摺動部５２に摺動可能に嵌入している。なお、第１の摺動部５２は上側押え部５１の端部をリング状に形成してメイン部材４０の中間部を摺動可能に嵌入させてもよい。

サブ部材５０の下端側の垂下部５３はメイン部材４０の箱載置部４２の端部側である立ち上がり部４３と摺動可能に接続されている。サブ部材５０の垂下部５３の下側端部とメイン部材４０の箱載置部４２の立ち上がり部４３とを摺動可能に接続する構成は、図１（Ｂ）に示すように、メイン部材４０の箱載置部４２の立ち上がり部４３の端部にサブ部材５０の垂下部５３が嵌入する第２の摺動部４４が、サブ部材５０の垂下部５３の下側端部には、メイン部材４０の箱載置部４２の立ち上がり部４３が嵌入する第３の摺動部５４がそれぞれ形成されている。

20

【０００８】

なお、この場合、第２の摺動部４４は、立ち上がり部４３の先端部を垂下部５３に摺動可能に巻き付けてリング状に形成し、第３の摺動部５４は、垂下部５３の先端部を立ち上がり部４３に摺動可能に巻き付けてリング状に形成している。

これにより、メイン部材４０とサブ部材５０とによって四角形の枠３１が形成されている。メイン部材４０の箱載置部４２の立ち上がり部４３（端部側）及びサブ部材５０の垂下部５３（下端側）には、角形箱１０に向かって突出する突き刺し部４５、５５を設けて、角形箱１０の前面に食い込むようにしている。なお、突き刺し部４５、５５のうち、いず

30

【０００９】

ここで、ハンガー装置２０によって角形箱１０（例えばティッシュペーパーの箱）を、例えばベッド６０の手摺り６１に吊り下げる方法について説明する。

まず、サブ部材５０の上側押え部５１を持ち上げ、第１の摺動部５２をメイン部材４０の中間位置で上方に摺動させると共に、第２、第３の摺動部４４、５４をそれぞれ垂下部５３、立ち上がり部４３に摺動させ、底部４２１と上側押え部５１との間隔Ｈを広げる。対となる吊り下げ部材３０の間隔Ｌ１を角形箱１０の長さＬ２より短くしておき、対となる吊り下げ部材３０によって形成された両方の四角形の枠３１の中に角形箱１０を入れる。このとき、底部４２１の長さＷ１は角形箱１０の幅Ｗ２と同じか、幅Ｗ２より僅かに小さくしている

40

るので、垂下部５３と立ち上がり部４３とを外側に引っ張って広げて角形箱１０を入れ易くする。角形箱１０を入れ終わったら垂下部５３と立ち上がり部４３の弾性変形によって角形箱１０が締めつけられて保持される。

その後、上側押え部５１を角形箱１０の上面に向かって押し下げて、底部４２１と上側押え部５１との間に角形箱１０を挟み、吊り下げ部材３０によって角形箱１０を保持する。この状態で吊り下げ部材３０の掛止部４１をベッド６０の手摺り６１などに引っ掛けて角形箱１０を吊り下げる。

【００１０】

このように、ハンガー装置２０は、メイン部材４０の箱載置部４２に、例えばティッシュペーパーの箱や薬などの小物を収納しておく箱やトレイなどの角形箱１０を載置し、サブ

50

部材 50 を摺動させて角形箱 10 を上部から覆い、ハンガー装置 20 の掛止部 41 を、例えばベッド 60 の手摺り 61 に掛止することにより、ベッド 60 の傍に角形箱 10 を取付けることが可能となる。したがって、ベッド 60 上の枕元やベッド 60 の下にティッシュペーパーの箱などを置いて置く必要がなく、ベッド 60 上に寝ている人が簡単にティッシュペーパーや薬などの小物を角形箱 10 から取り出すことが出来る。

なお、吊り下げ部材 30 を構成する線材には樹脂が被覆されているので、第 1、第 2 及び第 3 の摺動部 52、44、54 によってメイン部材 40 とサブ部材 50 を接続するとき、合成樹脂素材どうしが接触する。そのため、接続部分の接触面の摩擦係数が例えば鉄材などの線材どうしが接触するときより大きくなり、メイン部材 40 とサブ部材 50 によって角形箱 10 を保持した状態は緩むことがなく、角形箱 10 が箱載置部 42 から脱落するよう

10

【0011】

また、メイン部材 40 の箱載置部 42 の端部側及び / 又はサブ部材 50 の下端側には、角形箱 10 に向かって突出する突き刺し部 45、55 を設けているので、箱載置部 42 に載置した角形箱 10 に突き刺し部 45、55 が突き刺さり、簡単に角形箱 10 が箱載置部 42 から滑って落下するよう

なことはない。
また、ハンガー装置 20 は線材で形成されているので、ハンガー装置 20 を使用しないときは、対となる吊り下げ部材 30 を重ねておけば、板材を折り曲げて形成したものなどに比べて小さなスペースに収納することができる。また、角形箱の大きさが変われば、対となる吊り下げ部材 30 の間隔を変えたり、メイン部材 40 の箱載置部 42 の底部 421 と

20

サブ部材 50 の上側押え部 51 の長さをペンチで折り曲げて変えることにより対応できる。
なお、吊り下げ部材 30 の上端部は、掛止部 41 を予め湾曲させてフック状に形成せず、直線状にしておき、取付けるベッドの手摺りの形状に合わせて、取付け時に掛止部 41 をペンチなどで湾曲させて形成してもよい。

また、ハンガー装置 20 を壁などに掛ける場合は、片面に粘着テープを貼り付けたフックや両面接着テープを介して接着するフックを対となる吊り下げ部材 30 の間隔と同じ間隔で壁面に接着しておけば、簡単にフックに掛止部 41 を掛けてハンガー装置 20 を吊り下げることができる。

【0012】

30

【0013】

【発明の効果】

請求項 1、2 記載の角形箱のハンガー装置においては、左右対となるの吊り下げ部材はそれぞれ、上端部がフック状に折り曲げ可能な又は予め湾曲させてフック状に形成した掛止部となっており、下部には角形箱の下部に合わせて角 U 字状の箱載置部を形成するメイン部材と、メイン部材の中間位置に上側押え部の端部が摺動可能に取付けられ、下端側はメイン部材の箱載置部の端部側と摺動可能に接続されて、角形箱を上部から覆う L 字状のサブ部材とを有している。そのため、メイン部材の箱載置部に例えばティッシュペーパーの箱を載置し、サブ部材を摺動させてティッシュペーパーの箱を上部から覆い、ハンガー装置の掛止部を、例えばベッドの手摺りに掛止することにより、ベッドの傍にティッシュペーパーの箱を簡単に取付けることが可能となる。したがって、ベッド上の枕元やベッドの下に置いておく必要がなく、ベッド上に寝ている人が簡単にティッシュペーパーの箱からティッシュペーパーを取り出すことが容易となり、緊急時にも簡単に手が届き、不便な思いをすることがなくなる。

40

また、メイン部材及びサブ部材は線材からなって、サブ部材の上側押え部の端部にはメイン部材の中間部が嵌入する第 1 の摺動部が、メイン部材の箱載置部の端部にはサブ部材の下端側が嵌入する第 2 の摺動部が、サブ部材の下側端部にはメイン部材の箱載置部の端部側が嵌入する第 3 の摺動部がそれぞれ形成されているので、メイン部材及びサブ部材は線材を曲げることによって簡単に形成することが出来る。しかも、例えばサブ部材の上側押え部の端部をリング状に形成した第 1 の摺動部と、メイン部材とサブ部材の端部をリング

50

状に曲げて形成した第２及び第３の摺動部によって、メイン部材とサブ部材を接続するので、ハンガー装置の製作が極めて簡単で安価であり、重量も軽く、収納も容易である。

特に、請求項２記載の角形箱のハンガー装置においては、メイン部材の箱載置部の端部側及び／又はサブ部材の下端側には、角形箱に向かって突出する突き刺し部を設けているので、箱載置部に載置した角形箱に突き刺し部が突き刺さり、角形箱が箱載置部から落下することを防ぐことができる。

【００１４】

【図面の簡単な説明】

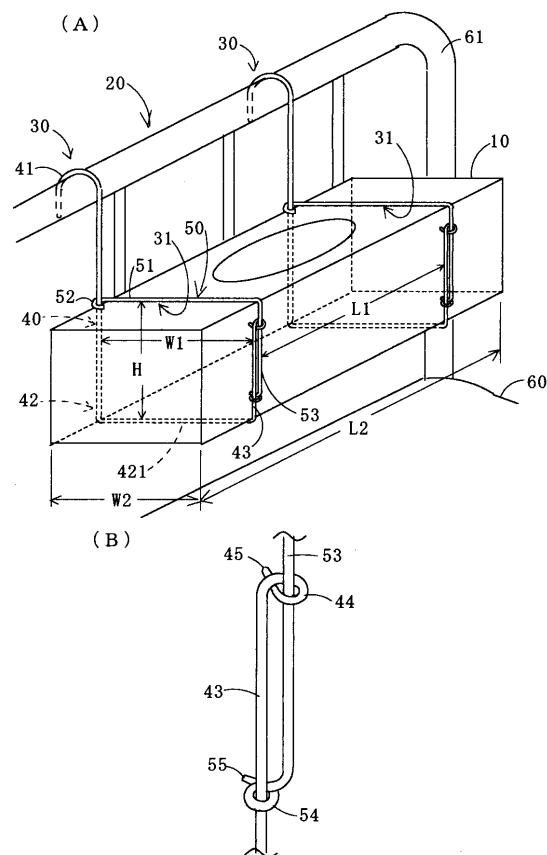
【図１】（Ａ）、（Ｂ）はそれぞれ本発明の第１の実施の形態に係る角形箱のハンガー装置を示す斜視図、部分拡大斜視図である。

10

【符号の説明】

１０：角形箱、２０：ハンガー装置、３０：吊り下げ部材、３１：枠、４０：メイン部材、４１：掛止部、４２：箱載置部、４３：立ち上がり部、４４：第２の摺動部、４５：突き刺し部、５０：サブ部材、５１：上側押え部、５２：第１の摺動部、５３：垂下部、５４：第３の摺動部、５５：突き刺し部、６０：ベッド、６１：手摺り、４２１：底部

【図１】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平05 - 016679 (JP, U)
登録実用新案第3039896 (JP, U)
特開昭61 - 203913 (JP, A)
実開平04 - 079576 (JP, U)
実開平04 - 118370 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)
A47G 29/00, 29/093
A47K 10/42